

慶應義塾大学メディアセンター本部
入江 伸

クラウド時代の 図書館業務とリポジトリ


昨日のセッションから思うこと

機関リポジトリは図書館業務？の一部である

- 機関リポジトリ業務は、図書館業務のほんの一部であり、図書館がサービスするリソースとしてもほんの一部である

図書館業務としての整理が必要

- 紙と電子資料の関係、図書館業務とリポジトリの関係を整理する必要がある。 NIIはCATも運用してるんですよね。
- これまでの図書館のリソースを継続的に発展させるためにどうしていくかの視点が必要(例えば、CATの著者名典拠・・・)
- 例えば
 - 学位論文
 - 電子と紙の関係 紙の目録とリポジトリのメタデータの関係とフロー
 - 遺跡発掘資料
 - 目録業務としての遺跡発掘資料の難しさ これをどうしていくの？
 - 役にたっているの？



紙のための管理、サービスに多くのコストがかかっています。

どうやって、紙から電子のためのコストへ移していくか、図書館の体制を変えていくかが重要な問題です。



その上で、図書館の過去の資産といまかけているコストを将来へ結びつけないと！

補足 相互運用性とURI

- 相互運用性、データ交換には、それぞれが共通する番号が必要
- Google Books IDによる Static Link

- ISBN

<http://books.google.com/books?vid=ISBN0451522907>

LCCN

<http://books.google.com/books?vid=LCCN:96072233>

OCLC

<http://books.google.com/books?vid=OCLC:36792831>

慶應BOOKID

<http://books.google.com/books?vid=KEIO10810265230>

運用はしっかりとしたサーバで

- はじめは、それぞれが、楽に、簡単に、自由に
- データが増えたら、運用継続とデータ保全のためにしっかりとしたサーバ経費をかけましょう
- できればデータセンターへ移したいです

慶應義塾大学メディアセンターでの目録・メタデータ フロー リポジトリ体制を変えました

紙資料の目録

コスト削減
国際標準

電子資料のメタ
データ
図書館ではつく
らない
データはフロー

SFX
(出版社からのMARC
電子メタデータ担当)

KOARA
大学アーカイブ

学内・キャンパ
ス単位ではない

Marcが手に入ら
ない電子書籍は
買わない

KOSMOS
検索システム

大事ななのは、コミュニティとデータ

- クラウドは集中すればするほど影響力が大きいです。
 - 震災で CATが止まったことを思い出します。
 - ただ、データは守られました。
- システムは変わっていくものです
 - システムがコミュニティのツールとして使いことができます。
- システム更新。技術革新、国際標準をおいにかけていくのは大変です。
- 共通サーバに乗るというのも選択肢です。
 - 私立は図書館システムの維持でいっぱい